



「菊香」 絵/文 白澤 恵舟

今年の菊人形祭りでは、上杉景勝と直江兼統主従の人形の中に、鳩山由紀夫首相も入りそう。寒気の中に美しく凛として咲く菊は、どこか戦国武将の気概にも似た面持ちがある。

開設30周年の 回顧

会長 菅原 三朗

現在私が理事長をつとめている、社会福祉法人昭和ふくし会が運営する特別養護老人ホーム「昭寿苑」が開設30周年を迎え10月31日記念式典が挙行されました。

「昭寿苑」は地域における要介護老人の入所施設として、定員50名で昭和54年4月開設されました。初代理事長でありました杉山政雄先生の老人福祉に対する先見性と物心両面にわたる御指導・御支援と町当局をはじめ関係者の御協力によりまして当時としては県内でも最も早い時期の開設でありました。

以来今日迄、歴代の役職員をはじめ関係者の御盡力により、施設サービスの先導的拠点として実績をあげるとともにその使命を果たしてきたところで

あります。

当時高齢化社会が急速に到来する中で、産業構造や社会環境の急激な変化による世帯の核家族化の進展や扶養意識の変化などにより、老人の生活や介護にも様々な問題が多発をするようになり、もはや老人や家族だけでなく社会全体の問題として受け入れていかなければならなくなりつつありましたが、しかし介護施設に入所することにはまだ世間の目を憚って抵抗を感じておった時代であり、今日のように入所待機者が多くいる状況からは、まさに隔世の感があります。

その後平成2年には福祉八法の大改正が行われ、住民の福祉はその人の住んでいる市町村が全責任を負うという、市町村主体型の地域福祉・在宅福祉へと移りましたが益々進む要介護老人の増加に対応し、秋田県でも一町村一施設設置が進められ平成11年に完了しておりますが、今年「昭寿苑」が開設30周年を迎えることは高齢化社会を見据えた対応の早さが伺われるところ

であります。

近年の超高齢化社会の進行に伴い平成12年からは社会全体で支えていこうと、公的介護保険制度が導入実施され、入所者の処遇も措置から契約へと理念の大転換もありました。又社会福祉の基礎構造改革では施設経営にも市場原理が導入され、新たな経営戦略が求められる時代となりました。

「昭寿苑」は昨年、居室等増改築工事及びスプリンクラーの設置工事を施工し、各所改修とホールの拡張など入所者のより安全でより快適な居住環境の整備を図ると同時に、職員にとってもより快適な職場づくりに努めたところでもあります。

開設30周年の節目を契機に、新たな時代のニーズに対応しながら地域福祉サービスの拠点として、一層その真価を発揮するためにも今後とも役職員一丸となって更なる研鑽につとめ、一層の情報公開と福祉施設としての評価を確立していかなければならないと思っております。

第2回 公益法人制度改革検討委員会

今後の対応等を常務理事会へ上程

県協会は9月29日、秋田県建設業会館の会議室にて今年度第2回目の公益法人制度改革検討委員会を開催した。

会議では▼公益社団法人、一般社団法人への移行▼合併▼移行申請をしないなど、今後想定されるそれぞれの

ケースについて公益法人認定基準等の資料を基に協議。今後の対応として▼新公益法人会計基準への対応▼各支部の事業の精査の実行する事について、常務理事会へ上程することとした。

なお、次回開催は11月を予定している。



新規学卒者研修会（後期）を開催

自己分析、コミュニケーションの基本

電子納品とCAD図面の標準化と図面作成を体験

県協会では、平成21年度新規学卒入職者（新入社員）研修会後期分を10月15日、16日の二日間にわたり、秋田ビューホテルにおいて開催。研修会には、この春会員企業に採用された新入社員20人を対象にして開催した前期研修会のフォロー研修で14名が参加した。

初めに（社）秋田県建設業協会の堀江専務理事が「政権交代により補正予算の見直し等、今までに経験したことのない改革によりすべての産業において厳しい状況となっている。10年前には170人

もの新規学卒者の方が研修を受けていたが、ここ2、3年は10人から20人とどまっている。このような厳しい環境の中で、入社から半年を迎え、大変なことのほうが多かったと思うが、厳しい競争を勝ち抜き、現在に至る皆さんには若さで乗り切っていただきたい。この研修を通して情報のやりとりをし今後の糧としていただきたい」と挨拶した。

研修会では（株）日本コンサルタントグループの酒井誠一氏を講師に迎え、▽働くことの難しさ▽一人前になるために

何が大切か▽基本動作の反復訓練▽自己SWOT分析（シート作成、グループ内発表、討議）▽コミュニケーションの基本▽コミュニケーションの事例演習◇交渉力について講義があり、問題解決についての演習が行われた。

二日目は（株）ビーガルの渡邊伸也氏より▽CADの基本操作▽電子納品とCAD図面の標準化について説明、電子納品図面作成の体験実習を行った。



BCP(事業継続計画)策定説明会 システム活用災害訓練実施



10月22日、（社）秋田県建設業協会（菅原三朗会長）、（社）北秋田建設業協会、秋田県土木施工管理技士会（北林一成会長）三者の共催で北秋田建設業会館を会場に「BCP策定説明会・災害支援システムを活用した災害訓練」を実施。会員企業から39名が参加した。

今回のテーマの一つであるBCPとは、企業が自然災害などを被災した際に発生する様々な人材・資機材等に対する制約を可能な限り抑制する事前対策や調達体制の整備、非常時の行動指針を併せて全社体制で定め、事業・業務を継続するための計画。午前の冒頭の説明会ではこれらの概要や

発注機関の取組状況・策定のポイントを秋田県建設業協会から説明した。

また、BCP説明に引き続き、システムを活用した災害対応訓練を実施。参加者が現場と対策本部（会場）に分かれて、災害状況報告・作業指示などの情報伝達作業を実演した。

この訓練は仮定の災害発生状況を設定し、現場担当者がGPS機能付き携帯を活用して災害発生場所の位置情報と状況を写真により対策本部へ伝達、それを基に対策本部がシステムを活用して状況把握と作業指示を行うもので、訓練に先立ってシステム開発元の川田テクノシステム（株）から概要と機器の操作を説明。午後より担当現場を割り当てられた企業参加者を携帯電話を持参して予め設定の現場へ派遣、実際の情報伝達・受諾作業が行われた。

協会・技士会では今後、同様の説明会・訓練を（社）能代山本建設業協会との共催で11月12日に実施する予定。

1人でも雇ったら、入ろう。労働保険。

11月は「労働保険適用促進月間」です

労働者を1人でも雇っている事業主は労働保険（労災保険・雇用保険）に加入する義務があります。

労働保険（労災保険と雇用保険）は、農林水産業の一部を除き労働者を1人以上使用する全ての事業主が加入することとなっています。

該当する場合は、事業主及び労働者の意向に関わらず、法律上、当然加入の手続を行うことが事業主の義務となっています。まだ加入されていない場合は、早急に最寄りの労働基準監督署かハローワーク（公共職業安定所）にご相談されるようご案内いたします。

秋田労働局 総務部 労働保険徴収室
秋田市山王7-1-3
TEL 018-883-4267

見過ごしません小さなリスク ゼロ災職場の合言葉

平成21年度秋田産業安全衛生大会

秋田県労働災害防止団体連絡協議会（三浦政彦会長）は10月7日、平成21年度秋田産業安全衛生大会を秋田市文化会館で開催し、関係者ら約320人が参加した。



大会の第1部では、安全衛生活動の推進や取組みに功績のあった29事業所と24個人を表彰、賞状・記念品を授与。第2部では東芝ソシオシステムズ（株）による安全衛生事例発表、秋田出身で早稲田大学准教授の太田章氏（レスリング五輪ロサンゼルス・ソウル銀メダリスト）による「つねに前向き、ネバーギブアップ精神で」と題した記念講演が行われた。

また、大会に先立ち同日午前「秋田快適職場推進フォーラム」が開かれ、快適職場づくりの事例発表と中央労働災害防止協会東北安全衛生サービスセンター専門役の宮永賢成氏による「快適職場とメンタルヘルス」と題した講演も行われた。

建災防関係での表彰者は次のとおり。

事業場賞 (8事業場)	個人賞 (7名)
(株)タナックス	[功労賞] 2名
(株)上村建設	村岡淑郎 村岡建設工業(株)
(株)近藤組	仲野谷藤吾 角館建設工業(株)
(株)杉本組	[功績賞] 3名
仁賀保建設(株)	澤口美恵子 (株)オオタベ
寺田建設(株)	伊藤 久 伊藤栄建設(株)
(有)柴康土建	石川雅史 (株)大和組
(有)折原建設	[職長賞] 2名
	大森 一 小坂建設(株)
	小南憲悦 (株)皆瀬土木

(財)建設業福祉共済団から

建退共秋田県支部から

※上記の記事はホームページに掲載されています。

<http://www.a-kenkyo.or.jp>

秋田水風景

文と写真/加藤隆悦

フリーカメラマン兼フリーライター
取材・執筆歴/旅の手帖、WoodyLife、ベンチャー・リンク、郷、あるる他
海外取材歴/ドイツ、アメリカ、ブラジル
写真塾・写楽 主宰/写真教室、撮影ツアー企画等

Vol.7 小又峡

【こまたきょう】
北秋田市森吉



森吉山麓に多数存在する渓谷群のうち、とりわけ小又峡については、「最後の秘境」というキャッチフレーズがつく。しかしそれは決して誇張ではないように思われる。だいたい小又峡には、車道の終点から地続きに徒歩で足を踏み入れるというわけにはいかないのだ。

小又峡の手前には、昭和28年の森吉ダム completionで生まれた人造湖・太平湖があり、この湖を船で縦断しなければ、渓谷の入口にたどり着くことは出来ない。太平湖には小又峡探訪の足として一日7往復の遊覧船がピストン運航されているのだが、そもそも一帯は多雪地であり、船が運航されるのも6月から10月までのわずか5ヶ月間に限られる。事実上、11月から翌年5月までの7ヶ月間は、人の侵入を頑なに拒む原始の世界に戻るのだ。

しかし、逆にその意味でも、踏破の出来る6月から10月までの期間はとても貴重な。大自然

の景観が素晴らしいのだ。渓谷沿いに整備された1.8kmの遊歩道の途中には、無数の滝、凧穴、淵が続く、極めつけは遊歩道終点の「三階の滝」。三段になって流れ落ちる高さ20mの滝の姿は、観光パンフレットなどで見る機会はあるけれども、実物を目の当たりにして改めて感動しない人はいないだろう。大自然の造形美の極致だ。

「最後の秘境」とはいえ、探訪に重装備は必要ない。遊歩道にもほとんど高低差はなく、歩きやすい恰好さえしていれば老若男女誰でも楽しめる。

県外から訪れるお客さんがいて、どこかの観光スポットに案内しなければならなくなったら、ぜひ小又峡も候補に入れていただきたい。きつと秋田の「株」があがること、間違いない。

現代に迫る「劔岳・点の記」

藤原優太郎

今年、公開された新田次郎原作の小説、「劔岳・点の記」が木村大作監督の作品として公開され大きな話題を呼んだ。明治末期、帝国陸軍陸地測量部が日本全国の5万分の1の地図を作成するため、当時の測量官たちが未踏の山岳地帯に分け入った物語である。

これは柴崎芳太郎という新進気鋭の測量官たちが土地の山案内人、宇治長次郎に従って未踏とされていた越中国(富山県)の難攻不落の山岳、劔岳に挑んだ実録に基づいたものである。それまで劔岳は立山信仰に携わる土地の人たちに、針の山と呼ばれ、絶対登ってはならない禁断の山とされていた。それを敢えて軍事的国策のため、地図製作に欠かせない三角点測量を実行したのが柴崎測量隊であった。

かれらは艱難辛苦のうえ未踏とされていた山頂への初登頂は果たしたのだが、結果的に劔岳山頂に三角点を設置することはできなかった。一行が計らずもそこで目にしたのは奈良時代のもたとされる鉄剣と錫杖の頭部だった。はるか1000年も前、すでにこの峻峰は登られていたというまぎれない事実。それも信仰の力のなせる技であったものだろう。

小説『劔岳・点の記』を読んで、昔の測量官たちの熱意と行動力には感動したものだ。映画化の話が出始めた一昨年夏、私たち「あきた山の学校」男女8人のパーティーはぜひこの「点の記」ルートを踏破してみたいという決意で劔岳登山を敢行した。

小説や映画では、立山行者のいう「雪を背負って登り、雪を背負って下れ」という。その暗示どおり柴崎隊によって劔岳は登られた。私たちもその長次郎谷の大雪渓から登頂した。幸運なことに雪渓が途中で切れることもなくアイゼン(滑り止めの金かんじき)を装着してピッケルを頼りに山頂に登りつめた。現代装備と困難な技術をもってしても登ることが難しいルートから登頂を果たして一同、柴崎隊にあやかって感動したものだ。

先日、この測量隊の足跡を追ったドキュメント映像がNHKハイビジョンの番組で放映された。映画と違い、劔岳そのものに登る前、まわりの展望のいいピークに立って測量を重ねたその苦労を丹念に再現したものであった。



劔岳は自分にとって思い出深い山であり、岩登りを始めたのもこの山であった。四方に鋭い岩稜をそぎ落とす2999mの難峰は血気にはやるクライマーたちの修練道場として、自分たちも数多くのルートに足跡を刻むことができた。それだけに、初登当時の苦労というのが手にとるように分かる。

この夏、今度は同じ越中の信仰の山である薬師岳から立山、劔岳まで延びるコースを縦走し、五色ヶ原、ザラ峠から越中沢岳、立山浄土山まで歩いた。この五色ヶ原やザラ峠などの尾根道も柴崎隊が歩を刻んだところである。今では要所に手頃な山小屋があつてそれほど難しいところではないが、そうはいっても誰もが歩けるような易しいコースではない。激しく登り下りを繰り返す縦走路は明治期、いやそれより前から樵など土地の山人たちによって道が踏み分けられたところである。眼下に黒部川の源流を見下ろしながらかつての雄者たちに思いをはせるのも自然の成り行きであった。

地図は大航海における羅針盤のようなものである。この詳細なペーパー情報が詰まった道案内なしにはどこの山も歩けない。山岳測量や地図製作も今では国土地理院という役所の仕事になっているが、連綿とつづくたくましい地図測量官たちには最大の感謝と畏敬の念をもって山を歩いている。